

未来の学校をいっしょに考えよう！

府中小学校の新築に向けたワークショップ



新しい学校づくり NEWS Vol.1

石岡市では府中小学校の新築に向けた計画を進めています。事前に実施したアンケート結果をもとに、子どもたちの未来を育む「新しい府中小学校」のあり方について、地域の皆様のご意見を反映させることを目的とし、参加者同士の対話による地域参加型のワークショップを開催しています。全2回を予定し、第1回は、小学校が地域にとってどんな場であってほしいか、未来に向けて何を残していきたいか等のテーマについて皆で考え、意見を出し合いました。

全2回ワークショップ開催概要

第1回
7月6日

『こんな場所になってほしい、残してほしいところは？』
新しい小学校に対する希望や想いを話し合いました

第2回
8月24日

『みんなの想いや意見がかたちになった設計をみてみよう！』
第一回で出た意見を反映した設計計画をみんなで見て感想や意見を出し合います

第1回・第2回のワークショップを通して頂いた声やご意見を参考にさせていただき、より具体的な設計の計画を行っていきます。



第1回ワークショップを開催しました！

第1回目のワークショップでは、事前に行われたアンケートの結果や石岡市の人口の推移などの発表後、新しい府中小学校がどんな場所であってほしいか、府中小学校で残したいものは何かなど3つのテーマに対してグループごとに意見を出し合ってもらいました。

ワークショップ
活動の様子





【各班から出た意見まとめ】

① 地域・コミュニティ

- ・地域と学校が連携をとりやすいこと
- ・地域の人と関われる場、繋がれる場が必要
- ・地域交流のための設備づくり
- ・地域の各世代が交流できる場
- ・地域みんなが安心して住める環境
- ・多くの人と関われる場所
- ・児童と地域住民が交流できる機会の確保

② 安心・安全・防災

- ・災害時に安心して避難できる場所
- ・災害時の対応や防災の役割
- ・防災スキルや知識を習得できる場
- ・避難時に安心して過ごせる設備
- ・児童が安心して遊び・過ごせる場所
- ・バリアフリー化、多目的トイレの整備
- ・安全で安心な生活環境の確保

③ 学び・体験・育ち

- ・子どもが学べる場所、遊びながら学べる場所
- ・新しい発見や視野を広げる機会がある場所
- ・石岡の歴史を学べる
- ・大人も学べる場
- ・いじめのない学校
- ・子どもたちの健やかな育ちをサポートする
- ・地域との連携

④ 誰でも集まれる・居場所

- ・誰でも集まれるみんなの居場所
- ・就学前の子どもや高齢者も集まれる場所
- ・友達と楽しく過ごせる場所
- ・多世代が交流できる場
- ・卒業生も集まれる場

⑤ 青春・交流・個性

- ・地域住民と児童・生徒の交流の機会がある
- ・地域住民も楽しめるイベントや活動がある
- ・青春を楽しめる環境
- ・子どもの個性を尊重できる地域づくり
- ・若者支援や居場所づくり
- ・多様な経験ができる場

⑥ 運営

- ・自習室など個人で勉強できる場所
- ・休日などに気軽に遊べる遊具がある
- ・コワーキングスペース
- ・安心して利用できる更衣室

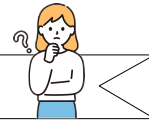


このテーマで出た意見で共通していたキーワードは

「交流・居場所」「安心・安全」「地域とつながる」「学びと育ち」「誰もが利用しやすい」でした。

まず学校と地域が連携し、多世代が交流できるコミュニティの場でもあること、災害時にも安心して避難・生活できる防災拠点としての役割を求める声が多く見られました。

また、子どもが主体的に学び育ち遊べる場、地域の歴史や文化、自然とつながり学べる環境、卒業生も含め誰もが集える開かれた居場所への期待も見られました。さらに勉強だけでなくワークスペースや地域の遊び場を求める声もあり、新しい府中小学校には小学生の学ぶ場所としての役割にとどまらず、地域に住む人々の拠点としての役割が求められていることが分かりました。



【各班から出た意見まとめ】

① 学校・教育

- ・地域の状況に対応した新しい学校の形
- ・人口減少に対応し、無駄な教室がでない学校
- ・ICTの活用やデジタルと体験型授業の融合
- ・誰もが学べる場
- ・地域・郷土に根ざした教育
- ・複数の学校の統合案なども視野に入れた検討

③ 自然・安心・防災

- ・自然と共存した安心で心地よさを感じる環境
- ・災害時にも機能する地域の防災拠点
- ・備蓄施設が整備されている
- ・バリアフリー
- ・大人も子どもも安心して過ごせる居場所

⑤ 学び・人との関わり

- ・多世代が集まり交流できる場
- ・子どもたちが生き物や自然と触れ合える環境
- ・地域全体で子どもを育む仕組み
- ・「地域の先生」との繋がりや担い手の育成
- ・多様なコミュニティが生まれる拠点
- ・学生だけでなく、若者から高齢者まで誰もが学べる場所
- ・コワーキングスペースとしての機能

② 地域・交流・町の拠点

- ・地域の人々が世代を超えてつながる場
- ・子どもと大人の交流が生まれる場
- ・保育園やコミュニティ施設の整備
- ・生活支援ネットワークの拠点
- ・誰もが集まれる、町の中心となる学校
- ・AIでは代替できない、人と人とのつながりを感じることができる場

④ 歴史・伝統・文化

- ・歴史や伝統文化を次世代に継承する教育の場
- ・地域の祭りや行事の継承拠点
- ・時代が変わっても子どもたちが元気に通える学校



参加者からは、学校を「単なる教育の場」ではなく、「地域の核となる多機能な拠点」として捉える意見や、人口減少社会においても地域と連携し、持続可能な未来に貢献できる学校の在り方を求める意見があがりました。50年後も今と変わらず子どもたちが元気に学校に通う風景や、様々な状況に対応する地域の拠点となる学校の姿が期待されていることが分かりました。



テーマ①②について話し合い、様々な意見に触れ、考えやイメージが広がったあとで、今ある府中小の良い所、残したい所に目を向け意見出しを行ってもらい、各班ごとに発表を行いました。



【各班から出た意見のまとめ】

① 自然・環境・動物

- ・大けやき、ザクロの木、かしの木、桜や銀杏の木を残したい
- ・緑豊かな自然環境
- ・うさぎの飼育
- ・畑、農業体験

② 歴史・地域資源

- ・石碑
- ・ふるさと学習を続けたい
- ・ブランコなどの遊具
- ・昔からの校庭の様子
- ・国分尼寺の歴史
- ・石岡の歴史と関わる史跡や遺跡

③ 学校行事・文化・人

- ・人々の想い
- ・クラブ活動
- ・PTA 活動
- ・学校の食育や給食
- ・地域とつながるイベント
- ・続いているイベント・祭り
- ・運動会・行事
- ・先生
- ・おいしい給食、地産地消の給食
- ・卒業生のつながり



多くの参加者からは、学校がこれまで地域と共に育んできた「自然・歴史・人とのつながり」を大切にしていきたいという声が寄せられました。

◆自然・環境・動物

校内や周辺の大けやきやザクロの木、豊かな緑、ウサギの飼育や畑・農業体験など、子どもたちが自然と触れ合える環境を残していきたいという意見、特に大けやきは、どの班からも取り上げられ、地域に愛される存在であることがわかりました。

◆歴史・地域資源

隣接する国分尼寺や石岡の遺跡・史跡を大切にしたいという声がありました。

また、学校の歴史や地域文化を学び、子どもたちに受け継いでいきたいという意見も出ました。

◆学校行事・文化・人

運動会やクラブ活動、地域とつながるイベント、地産地消の給食、PTA 活動など、日々の学校生活を通じて育まれる地域や保護者、先生とのつながりを大切にしていきたいという声が多くありました。



ワークショップでは「新しい小学校をつくるヒント」を得るために、全国の特徴ある学校について調べてみました。参加者のみなさんはグループに分かれて資料やインターネットを調べ、「こんな工夫があるんだ！」と話し合いながらまとめてくれました。

自分の携帯を使って検索を行いました。WiFi 接続や調べ方など、分からない人がいたら知っている人が教えるなど、協力し合う機会にもなるよう声掛けを行い進めていきました。



【調べた学校まとめ】



東京都 府中第六小学校

対話と発信を大切にする学校。

「学習ラウンジ」や「みんなのホール」など交流できる空間があり、子どもたちの意見を取り入れた新校舎づくりや、地域と連携したイベントが盛ん。



東京都 板橋区立紅梅小学校

「地域とともにある学校」を実践。

伝統芸能や農業を学ぶ機会があり、地域の人から学び、地域に還元する取り組みが行われています。



長野県 軽井沢風越学園

子ども主体の探求学習と対話を重視。

異年齢の子と一緒に学び、保護者や教職員も学校運営に参加。柔軟なカリキュラムで「授業時数特例校」にも認定されています。



和歌山県 きのくに子どもの村学園

個性を尊重するオルタナティブスクール。

固定教室を持たず、テーマごとに学ぶプロジェクト学習で、自主性や創造力を伸ばしています。



茨城県 美浦村立美浦小学校

自然との共生を大切にしている学校。

自然光を取り入れた明るい校舎で、地域の人と一緒に校章や校歌をつくったり、遠隔授業で他地域と交流しています。



千葉県 流山市立おおたかの森小・中学校

変化に対応できる柔軟な空間設計。

オープンスペースと個別学習が両立し、地域とつながる場合も校舎に組み込まれています。



熊本県 宇土市立宇土小学校

中庭や自然換気を活かした「自然とつながる学校」折戸や可動壁で教室と外をつなぎ、四季を感じながら学べます。



東京都 新渡戸文化小学校

「学びを自分で創る力」を育む学校。

3D プリンターやクリエイティブラボ、オープンキッチン、ギャラリー廊下など、学びを広げる多様な施設が整っています。

【共通して見えてきたポイント】

- ・ 地域とのつながりを大切にしている
- ・ 自然や環境を活かした空間づくり
- ・ 安全や多様性に配慮した仕組み
- ・ 子どもの主体性を育む学びを取り入れている
- ・ 校舎そのものが学びや交流の場になるデザイン



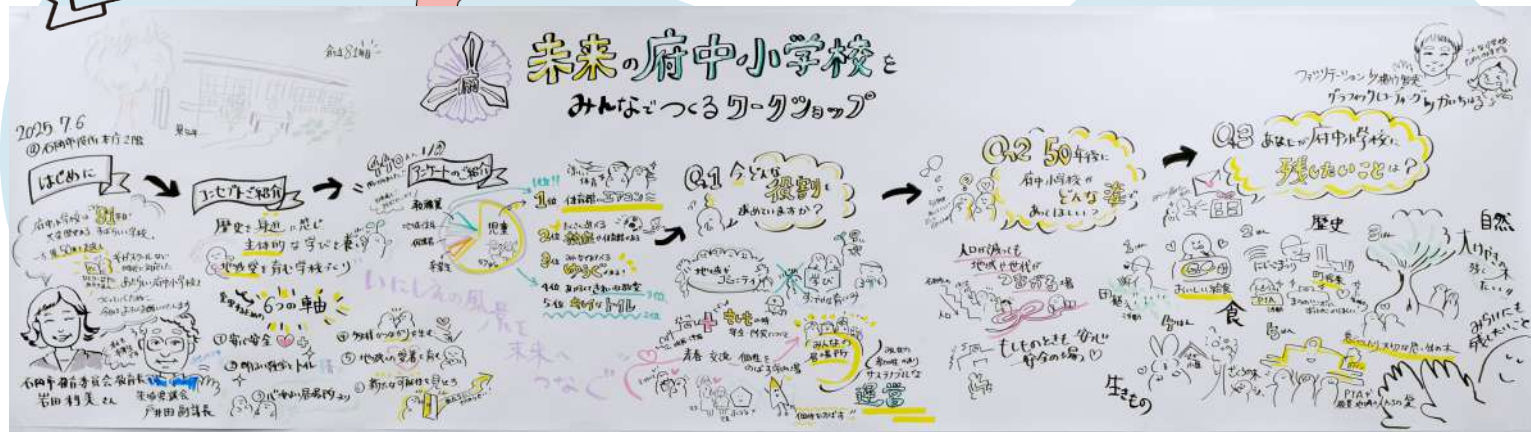


ワークショップの最後に、グラフィックレコーディングの発表がありました。

今日一日の話し合いの内容や意見が絵や図で視覚的に整理されたことで、分かりやすく振り返ることができました。



完成した
グラフィックレコーディング!



今回のワークショップでは、「今、求められる学校」「50年後の理想の姿」「残したい学校の価値」の3つのテーマに対して地域の皆様からご意見を頂き、新しい学校に求められるものが単なる教育機関としてだけでなく、地域で暮らす人々皆が利用でき、住人同士が繋がるコミュニケーションの場、防災拠点の場としての機能を求められていることが分かりました。

第2回のワークショップでは今回出された多様な意見や視点をふまえ、設計JVが計画の提案を行い、より具体的な視点からの意見を集める機会とし、計画の精度を高めることに役立てていきます。